

作成日：令和4年3月26日

令和3年度第9回 高松圏域自立支援協議会 相談支援事業所部会議事

日付	令和4年3月17日
時間	9時30分～11時00分
開催会場	Zoom
参加機関等	高松市障がい福祉課、障害者生活支援センターあい、障害者地域生活支援センターほっと、障害者相談支援センターりゅううん、相談支援事業所ライブサポートセンター、支援センターこがも、あじの里地域生活支援センター、障害者相談支援センターつなぐ、生活支援センターサンサン、相談支援事業所おりがみ、相談支援事業所 EVEN、相談支援センターしのめ、特定非営利活動法人自立ケアシステム香川、社会福祉法人高松市社会福祉協議会障がい者相談支援センター、相談支援事業所ウェルネスサポート、障害者相談支援事業所かつが、相談支援センターフリーダム、みき相談支援センター、相談支援ナビット、障害者生活支援センターたかまつ、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 22名

議題1：計画相談受け入れ状況

議事	○新規受け入れ状況の確認
----	--------------

議題2：情報共有

議事	・障害者相談支援事業所かつが閉鎖の報告 令和4年3月末で閉鎖 ・新型コロナウイルス感染症陽性者の対応について 検査を受けて陽性が判明してから入院になるまでの支援の流れ等を共有
----	--

議題 3：高松市障がい者基幹相談支援センターによる特定相談支援事業所後方支援に関して

議事	<p>① 個別ケースの相談は利用者様がお住いのエリアを管轄する地域拠点にご相談ください</p> <p>例：利用者や家族への関わり方について教えて欲しい 支援に同行して欲しい 信頼関係再構築のために関わって欲しい 障害福祉サービスなど社会資源の情報提供 市外・県外からの転入、転出者に対する支援 相談支援事業所変更に関する相談</p> <p>② 事業所運営に関する相談は貴特定相談支援事業所があるエリアを管轄する地域拠点にご相談ください</p> <p>例：制度改正後の加算の取り方について教えて欲しい 協働連携加算の方法について教えて欲しい 一人事業所のため、連絡対応で困ることがある 虐待防止研修や感染症対策研修の開催方法について相談したい</p>
----	--

議題 4：今年度振り返り グループワーク

議事	<p>4 グループに分かれ以下の以下の4事項について意見を出し合い、発表した。</p> <p>1：全国相談支援専門員協会主催研修の感想 2：今年度相談支援部会で実施した研修の感想 3：今年度の相談支援部会を振り返り来年度取り組みたいことを考える 4：高松圏域の課題について考える</p> <p>発表より一部抜粋</p> <p>1：全国相談支援専門員協会主催研修の感想 印象に残ったのは北海道の事例発表。相談員が2名体制に関わり、担当相談支援専門員の急な不在時にも対応可能な体制作りをしている。</p> <p>2：今年度相談支援部会で実施した研修の感想 様々な研修をおこない、グループワークで意見を出し合うことが良かった</p>
----	---

た。
緊急時プランの書き方やコロナの対応に関しても情報共有がなされて良かった。
今年度実施したALS患者から話を聞いたような、当事者の声を聴く機会が欲しい。

3：今年度の相談支援部会を振り返り来年度取り組みたいことを考える
Zoomでの開催は良かった。資料はメールで送ってほしい。その一方で対面の時のように会議終了後の雑談も含む交流が無いことは残念。ハイブリット開催が良いと思う。

オンラインは参加のしやすさや、顔と名前が覚えやすく良かった。参加できなかった人に対する情報共有が必要。協議会ホームページに掲載している議事録は情報量が少なく、有益な情報を得ることが難しい。

4：高松圏域の課題について考える

ヘルパーの不足を感じる。新たに事業所を探す時、派遣できるヘルパーが居ないという理由で断られることが多い。行政にも参加いただき議論が必要ではないか。

不足している社会資源、今ある資源の共有が必要だと感じる。

障がい福祉サービス、介護保険のはざままで対応に困るケースがある。

相談員がケースを見抜く力を身に付けられるような中身の濃い会議を要望したい。

モニタリングが3か月ごとや、6か月ごととなっているが3か月に1回という期間があくのは長いと感じる。必要に応じてモニタリング頻度を変えるケースもあるが、介護保険のように毎月モニタリングになるケースは少ない。